

2021年の奨学金をもらえなかった子供たちに 進級への奨学金を贈りませんか。

2021年中学校進学の子供達への寄付は10,110人分必要でしたが、2021年6月の募金活動終了まで8,067人分の寄付が集められました。2021年度奨学金に応募しながら、募金額が目標に達しなかったため、奨学金をもらえない不安な状態のまま中1に進級している生徒が大勢います。2022年度奨学金を改めて申請する子どもたちの中から、6人の子どもたちからの手紙とインタビューしたものを紹介させていただきます。



ワラウィット (ムー)

チャイヤブーム県 バンノンワン学校

父は飲料を運送しており、一日の収入は200バーツです。母は半身麻痺を患っており、車いすと杖を使わなければなりません。母が体調を崩すと、仕事がある父の代わりに僕は学校を休み、母の看病をしなければなりません。学校が終わったら、僕は急いで家に帰って全ての家事をこなし、ご飯を

炊いて父の帰りを待ちます。もし奨学金をいただけたら、制服と文房具を購入した後、将来の進学費用に少しでも貯金したいと思います。



クリッタパート (クローイ)

ナコーンラーチャシーマー県 ノンサガー学校

うちは四人兄弟で、僕がその末っ子です。今は母と一緒に借家に住んでいます。母は日雇い労働者で、父はナコーンナヨック県の工場で作業員をしています。新型コロナウイルスが蔓延する中、父は減給され、母は仕事の依頼が昔と同じようにはなくなってしま

いました。幸いなことに、住んでいる家の大家さんはこれに同情し、僕たちを助けるために家賃の支払いを無しにしてくれました。そのおかげで、両親の負担が部分的に軽減されています。



ナタリニー (ナムサイ)

スリン県 バンサカード学校

私の両親は田植え、ゴム採取、ユーカリ栽培といった日雇い労働の仕事をしています。仕事量は時期によって異なり、収入は全く不安定です。少しでも家計を支えるために、両親は副収入を得ようと土木の仕事もしています。週末になると、私は両親の田植えの仕事を手伝います。今学期は勉強

に関する出費が多いので、奨学金の手紙を出しました。もし奨学金をいただけたら、制服を買います。そして、将来のためにその一部を貯金します。



パッチャラパー (パーム)

ナコーンラーチャシーマー県 プラチャーラットサーマッキ学校

両親はサトウキビ刈り、トウモロコシの収穫、ジャガイモ掘りといった日雇い労働をしており、収入は不安定です。仕事がないと当然収入がありません。私は自転車で5キロメートルの道を通学していますが、その道は舗装されておらず、凸凹なので、雨の日は

移動ができないため、学校を休むしかありません。家には学校に行く交通費を払う余裕がなく、バイクを持っている友達の親にお願いして乗せてもらう時もあります。この通学費用のために、是非奨学金をいただきたいと思っています。



クライワット (ワー)

チャイヤブーム県 バングユウ学校

僕は祖母、父、母、そして小学校一年の弟と暮らしています。父はバイク整備士をしており、それで得たお金が家族の主な収入です。うちの村は小さく、殆どのお客さんはご近所です。そのため、収入は多くありません。その上、コロナが蔓延すると、収入が更に減少し、お客さんが全く来ない日もあ

ります。進学費用を貯めるために、母と僕は週末に草刈りの仕事をするようになりました。将来、僕は専門学校の整備課に進みたいと思っています。



クワンルディー (オーム)

マハーサラカーム県 バンノンワンノントン学校

住んでいた場所に麻薬の問題があったので、両親が離婚した後、安全を考慮して私と上の兄弟は田舎にある祖父母の家に移り住むことになりました。母は以前にバンコクに出て土木の仕事をしていましたが、コロナで失業してしまい、4月に家に戻ってきました。今、母は安定した収入がなく、祖父母と農作業をしています。将来、私は看護師になりたいです。

皆様にはこんな子どもたちが2022年に中2中3への進学するため、中学支援「1年分のみ」の奨学金ご支援を是非ご検討戴きたく存じます。彼らにとって、中学進学・進級のプレゼントを貰えることは何よりも大きな喜びです。皆様の暖かいご支援・ご協力をいただきますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

年末のご挨拶

皆さまにおかれましては、常日頃より弊財団からのお知らせに心をお寄せいただき、感謝申し上げます。

今回は奨学金を受給できない子供たちについてご報告させて戴きたいと存じます。昨年度寄付金不足のために、私共から申請者全員への奨学金を支給できず、中学校に進学しながらも奨学金を受給できないままになっている子供達が数千人にもなります。彼らは彼ら自身の学業継続への背中を押す大きな力として、また彼らの就学の為に幾多の困難を抱えながら頑張っている家族への心強い支援となる奨学金受給の機会を依然待ちわびております。コロナ禍で失業、解雇、感染対策のために生活に数々の支障や制約が発生するなど、貧困で恵まれない人々の生活は以前にも増して厳しく困難なものになっています。

私共は、このような子供たちが教育制度から脱落しないよう、最大限の努力を払って支援を実現すべきだと考えております。受給条件を満たしていながら昨年度の奨学金を受給できなかった子ども2,043名の一例をこのダルニフォーラムにてご紹介申し上げます。

奨学金応募の書類を学校が提出する1月には、2021年度奨学金を受給できなかった子供の他にも、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた子どもたちが大勢、前年以上に新たに応募してくるものと私共は予想しております。

タイの子どもたちのために長年活動しております当財団も、新型コロナウイルス感染症の影響を受けております。たくさんの方に呼びかける寄付活動は開催できず、活動の方法や形態を変える必要に迫られ、オンラインやSNSを活用した活動を増やしております。

このような状況の中、皆さまから身近な方々へ当財団の活動をご紹介いただき、子供達への支援の重要性や支援することの喜びをお伝えいただくことは、私共及び子供たちにとって大変ありがたい大きな力となります。

年末年始は幸せを贈り合う時期です。ご支援者様には、募金や身近な方々への当財団のご紹介を通して、地方の恵まれない子どもたちに価値ある「教育の機会」をプレゼントする活動に是非参加して戴きたく存じます。「教育の機会の贈り物」は子どもたちへの大きな励ましとなり、学習や人生における様々な困難を乗り越える強さを持つようになり、その素晴らしい貴重な経験を得た子どもたちが成長して、次の時代に彼ら自身がそのような機会を贈ったり、色んな形で恵まれない人達を支援する側になるものと確信しております。



EDF 財団 代表取締役

サンペット・ニンラット

活動報告



の贈呈式が開催されました。また、これに加えて、別予算の9,000パーツで生徒たちへのインターネットを中心としたデジタル情報と通信についての講演会とコンピューター教室の改善も行われました。

2021年11月11日

HP 財団と HP Inc (タイランド) 株式会社は EDF と協力し、『40 Days of Doing Good Grant』というプログラムの下、カンチャナブリ県の Samkhom Thai-Australian 校においてオンラインでパソコンと UPS (無停電電源装置) の寄付



2021年11月16日

EDF 事務所において Knorr-Bremse Global Care Asia Pacific Ltd. からの 1,000,000 Baht のご寄付金の正式な授与式が行われました。この寄付金は、支援者のご希望に沿ってチャチェンサイ県の中学と専門学校へ、160人分の就学の為の奨学金として贈らせていただきました。

The Education for Development Foundation (EDF)

50, Kasetsart University Alumni Bldg., Phaholyothin Rd., Ladyao Jatujak, Bangkok 10900

Tel. 0-2579-9209-11 (タイ語) 0-2942-8538 (日本語) Fax. 0-2940-5266

Email: public@edfthai.org URL: www.edfthai.org/jp

公益財団法人 民際センター (EDF-JAPAN)

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-13 山三ビル7F

TEL: 03-6457-5782 FAX: 03-6457-5783

Email: info@minsai.org URL: www.minsai.org